

令和6年6月10日

京口門だより No. 128

今年は梅雨入りが遅いのかどうかわかりませんが、すでに沖縄は梅雨入りしたとか。何かと不順な気候のこの頃です。「根も草もしづかにて梅雨はじまりぬ」(日野草城)

今月初めは日本東洋医学会学術総会に参加のため診療にご迷惑をおかけしました。さまざまなテーマで講演や発表がありました。漢方薬や鍼灸治療は多くの医療分野で用いられ有用性があることが発表されていました。最近まで流行した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の治療についても、感染初期の対応、コロナにともなう多様な症状、コロナ後の後遺症などについて漢方治療の役立つことが議論されていました。漢方薬は単に抗ウイルス薬というものではなく、われわれの身体の免疫力を助けることによって効果を発揮するのではないかと考えられます。

一般に感染症といえば呼吸器の病気、尿路の感染症、皮膚の感染症などなど、すぐに抗生物質を投与することになってしまいましたが、ウイルスによる感染症には抗生物質は効果がありません。むろん重篤な感染症の結核、梅毒などの病気には抗生物質は必須なものですが、抗生物質には耐性菌の問題があり、長期に使い続けることが、病気の原因細菌に対して抵抗性を生み、抗菌作用が失われてゆくこともあります。

咳や痰のでる気管支炎でも、始めから抗生物質ではなく、漢方には数多くの咳や痰の薬があり、対処することができます。尿路の感染症の膀胱炎や腎盂炎にも有効な漢方薬があり、抗生物質を初期から用いなくでも対処することもできます。そのほか下痢や腹痛をとともなう腸の感染症、結膜炎や虹彩炎などの眼科の感染症、副鼻腔炎や中耳炎など耳鼻科の感染症などにも、有用な漢方薬があります。では全く抗生物質は不要かといえば、先に述べた重篤な感染症には漢方だけでは不十分です。一般の感染症においても抗生物質はできるだけ初期に短く使い、後は漢方薬を用いることが良いのではないかと思います。

先日も新型コロナウイルスに感染後、咳が1月以上も治らず、夜も眠れない方が自分で咳止めの漢方薬を買って飲んで治らず、診察の上その人に適合した漢方薬を処方したところ2~3日ですっかり治ったという方がおられました。うまく漢方治療を受けていただきたいと思います。

